



オマーン：カーブス国王が8カ月ぶりに帰国

3月23日、ドイツで「医療プログラム」を受けていたカーブス国王は、8カ月ぶりに帰国した。同日に宮内省から発表された声明によると、カーブス国王はドイツでの医療プログラムを成功のうちに終え、完全な健康状態で23日夜にオマーンに帰国した。

評価

7月9日にドイツに出国して以来、11月5日に国民向けの短い声明を読み上げる映像が発出された以外にメディアへの露出が全くなかったカーブス国王の健康状態に関しては、様々な憶測を呼んでいた（これまでの経緯については「[オマーン：カーブス国王の健康状態](#)」『中東かわら版』No. 118（2014年8月25日）、及び「[カーブス国王が国民向けに声明を発出](#)」『中東かわら版』No. 174（2014年11月6日）を参照）。

公式発表では「医療検査」ないし「医療プログラム」のためにドイツを訪問していたことになっており、カーブス国王の病名・病状については一切触れられていないが、報道では結腸癌ではないかと噂されている。カーブス国王の帰国時の様子は、オマーンTV、オマーン国营通信などで映像、写真が報じられた。公開された約1分の映像では、タラップを1人で降りてくる姿や手を挙げて挨拶する姿が映されており、健康状態が安定している様子がアピールされていた。

カーブス国王は現在74歳で、1970年の即位以来、44年間にわたってオマーンを統治してきた。オマーン近代化の立役者として国民から広く支持されている一方、権力が国王に集中していることから、ポスト・カーブス体制ではどのような政治体制が構築されるのか、注目が集まっている。

写真:カーブス国王の帰国



出典:オマーン国营通信(ONA)

(村上研究員)

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

©各種情報、お問い合わせは中東調査会HPをご覧ください。URL：<http://www.mei.j.or.jp/>